

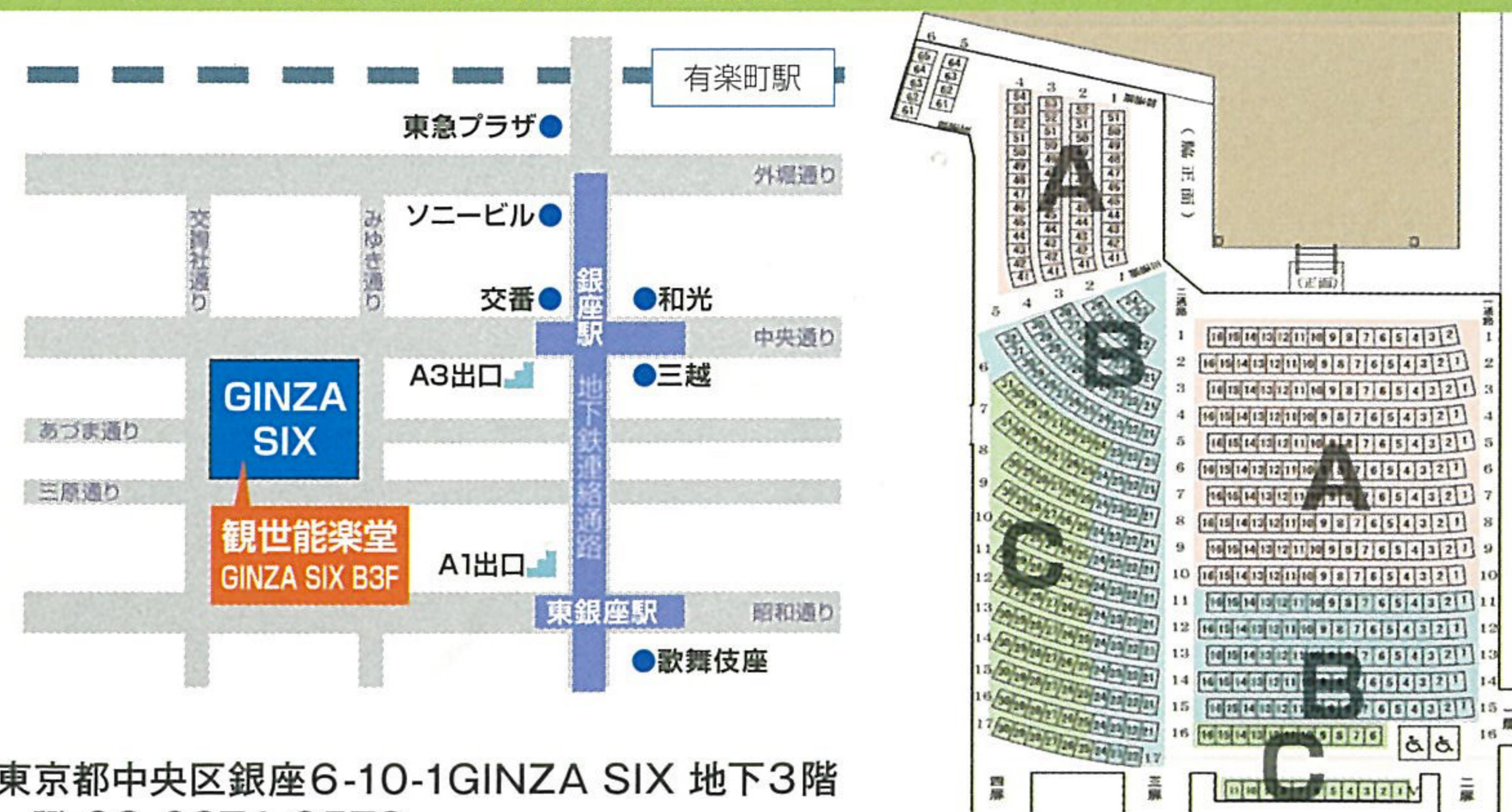
梅若研能会

六月公演

令和8年6月14日(日) 午後1時始(開場12時)
 於 観世能楽堂 Kanze Noh Theater
 GINZA SIX, B3F, 6-10-1, Ginza, Chuo-ku, Tokyo
 Sunday 14 June 2026 Start 13:00 (door open 12:00)

【船弁慶】梅若万三郎(前島写真店)

二十五世観世左近記念 観世能楽堂



東京都中央区銀座6-10-1GINZA SIX 地下3階
 TEL 03-6274-6579

- 銀座駅 東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線 A3出口より徒歩2分
- 東銀座駅 東京メトロ日比谷線・都営浅草線 A1出口より徒歩3分
- 有楽町駅 JR山手線・京浜東北線・東京メトロ有楽町線 銀座出口より徒歩10分

入場料(全席指定)

指定席A 8,000円	指定席B 6,000円
指定席C 4,000円	※学生は各席種3,000円引き

お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス) <https://eplus.jp/ath/word/69495>

カンフェティ TEL050-3092-0051 (平日10:00-17:00)
<http://www.confetti-web.com/umeken>

主催 公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03(3466)3041
 <メールアドレス> staff@umewakakennohkai.com
 <ホームページ> <http://www.umewakakennohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!

令和8年梅若研能会 公演開催日のお知らせ

橘香会 10月11日(日)	舞囃子【乱双之舞】シテ梅若紀長・梅若紀佳
国立能楽堂	狂言【船渡聲】シテ野村万作
	仕舞【花筐狂】観世鍊之丞、【砧】観世清和、 【山姥キリ】梅若紀彰
	能【道成寺】シテ梅若志長
十二月公演 12月13日(日)	国立能楽堂 能【隅田川】八田達弥、能【大瓶狸々】古室知也



【船弁慶】梅若万三郎(前島写真店)

能「蟬丸替之型」「船弁慶」みどころ講座

5月17日(日) 13:30~15:00
 於・梅若万三郎家能舞台(渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円(※研能会入場券購入者は無料)

講師 「蟬丸替之型」加藤 眞悟(かとう しんご)
 「船弁慶」梅若 紀佳(うめわか のりか)

梅若研能会 六月例会

令和八年六月十四日(日)午後一時始(十二時開場) 於 観世能楽堂

(二時)

能 蝉丸

替之型



狂言 茶壺

(二時三十五分)

シテ(逆髪) 加藤 眞悟
ツレ(蟬丸) 梅若 泰志
ワキ(清貫) 野口 琢弘
ワキツレ(興兒) 野口 能弘
ワキツレ(興兒) 吉田 祐一
アイ(博雅三位) 吉田 信海
後見 大藏 康誠

後見 中村 裕 梅若 志長
梅若 鉄音 遠田 修
梅若 千音世 伊藤 嘉章
中村 政裕 八田 達弥
地謡 青木 健一 長谷川 晴彦



狂言【茶壺】

休憩二十分

舞囃子 雲林院



シテ

青木 一郎
成田 寛人
小鼓 清水 和音
大鼓 大倉慶乃助
太鼓 大川 典良
萩原 郁也 古室 知也
萩原 志長 中村 裕
梅若 八田 達弥



能【蝉丸替之型】梅若万三郎(前島写真店)

能 蝉丸替之型 (せみまるかえのかた)

盲目の身となった醍醐帝の第四皇子・蝉丸(ツレ)は勅命により逢坂山に捨てられる際、臣下の清貫(ワキ)に、これは自分の後世を願っての天帝の思いやりと説き、出家する。博雅三位(アイ)が作った庵で琵琶を弾く蝉丸。そこへ姉宮である逆髪(シテ)がやってくる。長い黒髪が女性の美德とされる時代に醍醐帝第三皇女の逆髪は髪が逆立つ癖毛の異形の人で、心乱れるままに都を出て逢坂山に到り、琵琶の音に惹かれ姉弟の出会いとなったのだった。

変わり果てた弟宮と互いの不幸を嘆くと、二人は運命に導かれるように別れてゆく。《替之型》の小書(特殊演出)により皇族を強調した装束、動き、藁屋の位置が通常と変化する。

狂言 茶壺 (ちゃつぼ)

茶壺を背負い中国地方に帰る男(アド)。これを見た素破(シテ)は茶壺の紐に腕を通す。茶壺を自分の物だと言い張る二人に目代(アド)が仲裁に入るのだが・・・。

《素破》とは詐欺師、《目代》とは代官のこと。

舞囃子 雲林院 (うんりんいん)

伊勢物語を愛読する蘆屋公光が霊夢により訪れた都の雲林院で出会ったのは、在原業平の霊だった。仮寝する公光の夢に現れた貴人姿の業平(シテ)は二条の後との恋を語り昔を偲び夜もすがら舞を舞うが公光の目覚めと共に消えてゆく。

能 船弁慶 (ふなべんけい)

兄・頼朝と不仲となり都落ちする義経(子方)は西国へ逃れるため摂津の大物浦に着くが弁慶(ワキ)の助言により静御前(前シテ)に帰京を命ずる。別れを悲しみながらも義経の行く末の無事を願い舞を舞う静は、涙を流し都へと帰ってゆく。やがて船頭(アイ)が船を漕ぎ出すと突然風が強まり海が荒れ、海上に安徳天皇をはじめとした平家一門の怨霊が現れ、なかにも平知盛の霊(後シテ)が長刀を持ち一行に襲いかかるが、弁慶に祈り退けられて波間に姿を消すのだった。



能【船弁慶】梅若万三郎(前島写真店)

(終演予定 四時五十五分)

前シテ(静) 梅若 紀佳
後シテ(知盛の怨霊) 青木 響平
子方(判官源義経) 青木 響平
ワキ(武藏坊弁慶) 野口 能弘
ワキツレ(判官の従者) 野口 琢弘
ワキツレ(判官の従者) 吉田 祐一
アイ(船頭) 大藏 教義
後見 梅若 泰志 青木 健一
梅若 千音世 遠田 修
萩原 郁也 伊藤 嘉章
中村 政裕 梅若 紀長
古室 知也 長谷川 晴彦

能 船弁慶

(三時三十五分)



梅若 紀佳